旅の流

海で（一）

し瀬戸内海でも安藝に寄つた方の隅にある町の話だが、
それに
は船に出かけて行く世の習慣があ
つまり、に残つてゐることでもあつ
た。今さらかねて今でもそんなところがあ
るかね。それから私は膝を進めた。
瀬戸内海の昔の交通、それは想像した
けでも面白さうなものであつた。九州から
来るもの、四国から来るもの、山陰の方から
来るもの——さういふ人達は皆至るところ
の港に船の碇をおろして、風を待つたり潮を待つたり
して三日も四
日もかゝつて大阪の方へとのぼつて行
つた。旅つてその岸の港の灯の賑かさ
は、今日では想像の出来ないほどのんびりしたものであ
つたに相違なかつた。船の舳を並べた舟
はそれからそれへと續いて行つた